

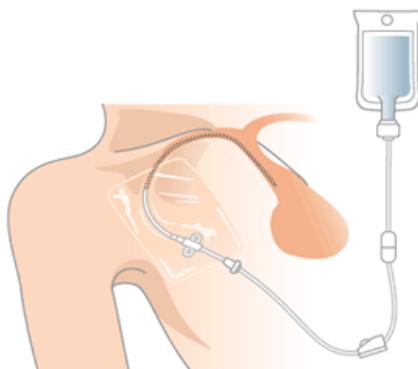
第 71 号

ICT だより

もくじ

カテーテル関連血流感染予防としてのクロルヘキシジン

研修会などのお知らせ



カテーテル関連血流感染予防としてのクロルヘキシジン

当院では 2011 年 7 月より、それまで参加していた厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業 (JANIS) ICU 部門から、日本環境感染学会 JHAIS 委員会のシステムへ参加先を変更し、ICU における中心ライン関連血流感染 (Central Line-associated Bloodstream Infection; CLABSI) サーベイランスを実施しています。

当院 ICU におけるカテーテル関連血流感染は、JANIS 参加当初より全国の中央値より高い傾向にありましたが、当時はマンパワー不足を要因とするサーベイランスの精度を疑問視する声が、医師を中心に聞かれたため、特別な対策を講じることができずにいました。JHAIS 参加を契機に、ICU の看護師 1 名が専任として CLABSI サーベイランスを担当する体制を構築し、より精度の高いサーベイランスの実施を目指して、正確な感染率の算出に注力しました。

しかし、結果は中央値をはるかに超え、はずれ値にも達する期間があるほど、他施設に比べて感染率が高かったのです (図 1)。原因としては大腿静脈からの挿入が多いことがあげられ、鎖骨下からの挿入を推奨しましたが、現場の医師から鎖骨下では気胸のリスクが高く、特に急を要する場合には大腿静脈からの挿入を希望するとの意見があがり、現場のニーズに則した感染対策を講じる必要性が生じました。

2011 年に米国疾病予防対策センター (CDC) が発表した「血管内留置カテーテル由来感染予防のための CDC ガイドライン」では、①教育・訓練、②マキシマル・バリアプリコーションの実施、③0.5%超過のクロルヘキシジンアルコール (CHG-AL) 製剤の使用、④カテーテルのルーチン交換回避、①～③の徹底にもかかわらず感染率が低下しない場合のクロルヘキシジン含浸のスポンジドレッシングの使用 (⑤) を重点分野として推奨しています。

→裏面につづく

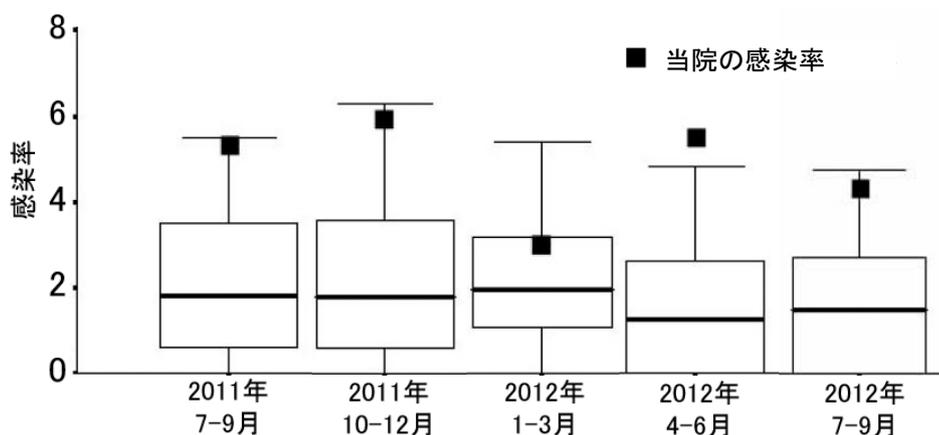


図 1 当院 ICU における CLABSI 率と全国との比較 (JHAIS 報告)

発行日 2014/7/31



研修会などのお知らせ

ステラッド

ユーザーフォーラム
8月2日(土)13:00~17:00
TKP ガーデンシティー仙台
21 階カンファレンスルーム B

ICCS ネットワーク研究
会 in みやぎ

感染制御・中材の
レベルアップを目指して!
8月9日(土)10:00~16:15
フォレスト仙台

第6回

J感染制御ネットワーク
フォーラム開催
8月23日(土)9:30~17:00
仙台国際センター

第10回

フィットテスト
インストラクター
養成講座

8月24日(日)12:30~17:30
仙台市シルバーセンター
第二研修室

第3回

感染対策講習会

9月13日(土)13:30~16:30
芙蓉閣

宮城ICN ネットワーク

第2回講習会

「尿路感染対策」
9月20日(土)10:00~12:40
仙台医療センター
メディカルトレーニングセンター

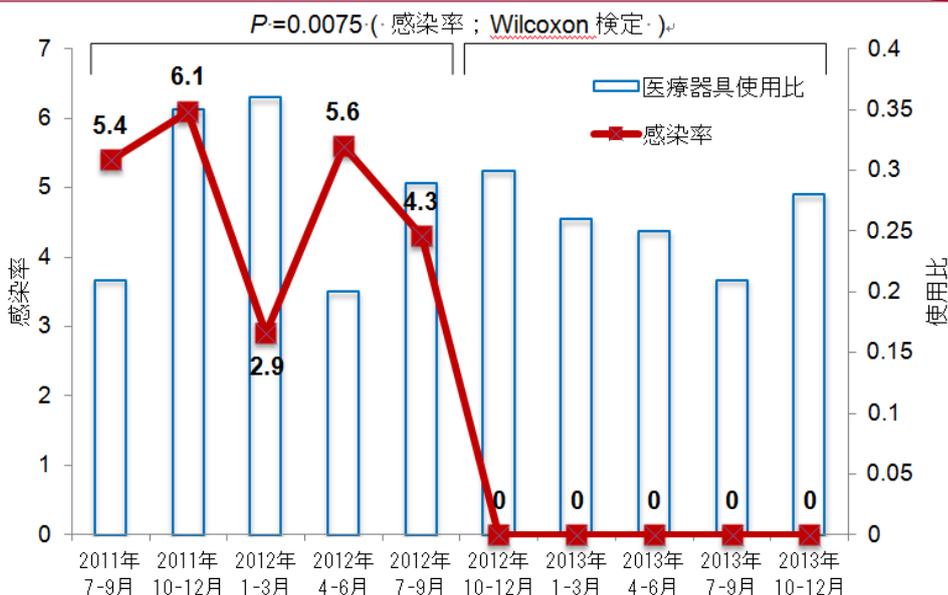


図2 当院 ICU における CLABSI 感染率と医療器具使用比の推移

当院ではすでに①、②、④は実践されていたため、2012年10月よりICUにおいて1%CHG-AL(ヘキサック®)を全例適応(それまでは10%ポビドンヨードを使用)とし、さらに、頸部、大腿静脈から挿入する場合は、CHGゲルパッド付き抗菌性フィルムドレッシング材(テガダーム™ CHGドレッシング)の使用を開始しました。これらの対策によりそれまで“5”前後だった感染率が、“0”となり、クロルヘキシジン製剤の使用がCLABSI感染の低下に効果的であることが示唆されています(図2)。

CHG-ALによるカテーテル関連血流感染の予防効果は、海外のシステマティック・レビューでも10%ポビドンヨードとの比較において有効性が示されており、ゲルパッド付き抗菌性フィルムドレッシングに関しても無作為化比較試験により、カテーテル関連血流感染のリスクを下げると報告されています。

ヘキサック®導入時には薬液が透明なため、消毒した部位が判然としないといった意見が現場から聞かれ、対応に苦慮しましたが、2013年に発売された色付きのCHG-ALであるクロルヘキシジングルコン酸塩エタノール消毒液1%「東豊」(図3)に変更してからは、そのような苦情もなくなり、現在ではICUだけではなく、全病棟でクロルヘキシジン製剤を使用しています。

ガイドライン等のエビデンスに基づき、現場のニーズにも応え、適切な製品を導入したうえで、感染対策を充実することは感染率の低下による患者満足度の向上だけでなく、組織内の良好な人間関係の維持にもつながると考えています。



図3 カテーテル関連血流感染防止のために導入したクロルヘキシジン製剤